

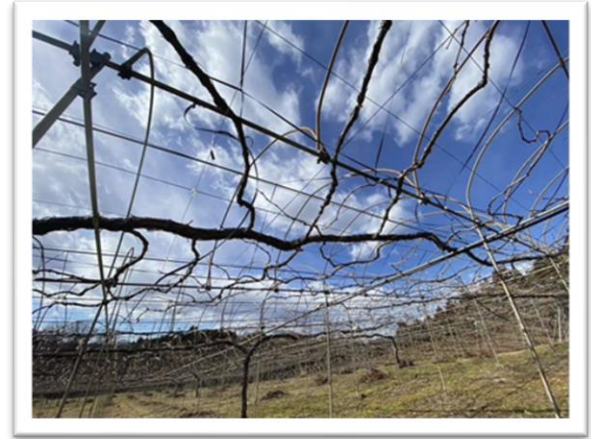
1月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

■ 剪定

長梢剪定は樹勢の抑制に有効で、巨峰や常陸青龍の栽培に適している。しかし、適切な枝の選定と切る長さを判断するには長年の経験が不可欠である。座学だけでは実践が難しく、初日は師匠の剪定を見てイメージし、指導を受けながら大まかな理論を理解することができた。



■ マイカー線付け直し

マイカー線はタヌキやハクビシンなど害獣に齧られて切れてしまっていたり、風で擦れてボロボロになってしまっていたので付け直しをした。

害獣にまた齧られないように水道のホースでマイカー線を覆い対策をした。



■ 二重被覆のビニール貼り

ハウスの内側にビニールを二重張りにすると、加温機の効率が上がる。気温が低い日や夜間でもハウス内の温度をぶどうの生育の適正温度に保ち、霜対策にもなる。

内側のビニールは、3月から4月頃までしか使わないので、外側よりも低コストな素材で、着脱も簡単な作りにした。

※マイカー線はビニールが雨や風からめくれるのを防ぐためのもの

活動を行った感想など

長梢剪定は、農家さんそれぞれで考え方もやり方も全く違う。正解はないけれど、なんとなくで切っている人も多い。植物生理をしっかりと勉強して、正しくかつ自分に合ったやり方を追求していきたい。

マイカー線は、せっかく付けても齧られてしまっただけは無駄な作業になってしまうので、違う素材の紐を探したり、獣が近寄らない対策を考える必要があると思った。



2月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

短梢剪定

短梢剪定は、毎年決まった場所で枝を短く切り、同じ場所から枝を伸ばす剪定方法で、一列にまっすぐ枝が伸びているので、管理がしやすく、剪定も容易にできるのがメリット。

シャインマスカットなどの大粒種無しの品種は短梢剪定が主流になっている



剪定枝の粉碎

剪定して出た大量の枝を、粉碎機で細かく砕いた。粉碎した枝のくずは、有機質の肥料になるが、枝には病原菌が残っている可能性があり、湿度が高い加温ハウス内に枝を残すと感染源になってしまうため、粉碎した枝は風通しの良い雨除けハウスに散いた。



マイカー線付け直し

1月と同様。

CX-10散布

農薬を散布した。

活動を行った感想など

短梢剪定は、ある程度簡単なので流れ作業になってしまいがちだが、油断していると残す芽数を間違えたり、伸ばす予定の枝を間違えて切ってしまうたりとミスが起こりやすいので、切る前に必ず品種の確認と全体を見て伸ばす枝を確認するように気をつけた。



3月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

主枝の紐縛り

今年新しく伸ばした枝と、過去に縛った紐がキツくなっていた部分を、枝がまっすぐになるように麻紐でパイプに沿わせて縛った。

曲がっている枝も多く、全体をまっすぐにするのはかなり難しかった。

皮剥き

樹と皮の間に虫が越冬している可能性があるため、樹に残っている古い皮をナイフで剥いた。巨峰系の品種は皮がボロボロで剥きやすい、シャインマスカットはくっついていて剥きづらいなど品種によって違いがあるのが面白いと思った。



雨除けハウスのビニール張り

雨除けのビニール張りは今回が初めての経験だったので、動きに慣れるまでに時間がかかった。特に風が強い日は、ビニールが煽られてしまって留めるのが大変だった。

ビニール張りは、各地域で決まったやり方と流れがあり、それぞれのメリットとデメリットがあって勉強になった。



活動を行った感想など

ビニール張りは1人では難しく、自分の畑のビニールを張り替える場合は人手を借りる必要がある。忙しい時期に人の時間を借りるわけなので、スピーディーに仕事が進むように事前の段取り、指示出し、気遣いもしなければいけない。とても大変なので、研修のうちに全体の流れや細かいポイントをしっかりと抑えておくようにする。

今後の目標など

- ・新しい研修先が変わったので、また一からいろいろな知識を吸収していきたい。
- ・耕作放棄地を借りることができたので、整備を進める。



4月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

■ 巨峰誘引

テープナーを使って枝を棚線に縛る作業をした。誘引をすることで、枝同士が被るのを防いだり、空いたスペースに枝を動かして埋めることができた。新梢が伸びることを想像しながら枝の配置を考えるのがとても難しかった。



■ ジベレリン処理1回目

ジベレリン処理は種無しぶどうを作るための重要な作業で、水にジベレリン粉末を溶かした液を、花穂という実の部分に漬けて行った。

花が満開になった日から3日以内が適切な処理のタイミングと言われていて、この作業が遅れると、実に種が入ってしまう。すべての花が同じタイミングで咲くわけではないので、毎日1房ずつ確認する必要がある、とても手間と時間がかかった。



活動を行った感想など

※長梢栽培（ちょうしょうさいばい）
枝を長く残して樹勢を抑える栽培方法

4月頭に芽が出て、暖かくなってきたと思ったら、すぐに枝が伸びてハウス内が緑で覆い尽くされた。毎年のことだが、植物の生育スピードの速さに驚かされる。また、初めての長梢栽培で慣れない作業が多いが、その分学びも多くあり勉強になっている。

今後の目標など

借りている畑について、4月から本格的に整備を進め、ジャングルのような状態から少し片付いた。整備は想像通り大変で、なかなか終わりが見えず途方に暮れていたが、綺麗になっていくにつれて、通りがかった人が声をかけてくれるようになった。近所の農家の方が気にかけてくれて、必要な機械を貸してくれたり、地域の集まりの時にみんなの手伝おうと言ってくれたりしたようで、とてもありがたかった。手を貸してくれる方の協力を得ながら、来年には苗を植えられるように頑張りたい。



5月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

花切り

ぶどうの花は開花し始めた頃に、だいたい10cmくらいの長さになる。そのまま大きくなると、実の数が多すぎて、花がポロポロと落ちてしまう花振りという現象がおきたり、小さな酸っぱい粒がたくさん付いたぶどうになり、売り物にならなくなってしてしまう。そこで、花穂上部の花を切って先端4cmだけを残し、粒の数を制限することで、一粒一粒が大きく甘くなっていく。



摘芯

ぶどうはツル性の植物で、放っておくと枝が何メートルも伸び続けてしまい、実よりも枝の成長に養分が使われてしまう。枝を短く切ることで、成長を抑制し、実に養分を送ることができる。切る長さは、品種ごとに残す葉っぱの枚数で決めている。



活動を行った感想など

今月は市外の農園を視察し、花切りや摘芯のやり方、次に来る品種などの情報交換をし、とても有意義な時間となった。視察先は、県内でもトップレベルの売上を誇る農園で、立派なハウスや直売所に驚かされた。自分は独立してやっていけるのか、まだまだ不安だらけだが、頑張り次第ではこうなれるんだという希望を少し持つことができた。ただ、自分はゼロからのスタートであり、長年の経験や基盤がある人と同じ土俵では勝てないからこそ、新規参入者の小さい農業でも勝ち抜いていける経営を目指していきたいと思った。

今後の目標など

水府地区に借りている畑については、整備を進める中で、棚線やパイプなどに修繕が必要な箇所が見つかり、栽培できる状態にするまでにさらに時間と費用がかかるため、整備は一旦保留とした。

農業において土地選びはとても重要なため、市内の農地状況の情報を収集しながら、立地、設備など今後の経営を見据えて慎重に判断していきたい。



6月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

2回目ジベレリン処理

2回目のジベレリン処理は1回目の2週間後に行う。種無し栽培では、細胞分裂を促すホルモンが種子から発生しないため、人為的に植物成長調整剤をつけて、果実を肥大させている。

らくらくカップというジベレリン処理専用の道具があり、液が房全体にまんべんなく付き、垂れた液はカップ内に戻り再び噴射口から出されるので、液が無駄にならない構造になっている。薬剤の費用が年々高騰しているので、このような低価格でコスト削減にもなる機械は積極的に導入していきたいと感じた。



笠かけ

日焼け防止に笠をかけた。ぶどうは強い日差しに当たると写真右のように日焼けを起こしてしまう。

また笠をかけることで、鳥や獣からの食害も抑えることができる。



活動を行った感想など

房がぶどうらしい形になってきて、収穫が近づいていることを感じながら毎日楽しく作業している。また、すでに鳥や獣にかなりの量のぶどうを食べられてしまっているので、電柵や罠の設置など獣対策を考えなければいけない。

今後の目標など

ある地域で倉庫付きの住まいを借りられそうなので、その近くで農地を探している。貸してもらえそうな畑もあったが、住まいから離れていたり、設備が十分でなかったり、小規模だったりして条件が合わなかった。

農地が決まるまで先は長くなりそう。探す範囲を広げたり、自分で新設することも視野に入れて考えていこうと思う。



7月報告書

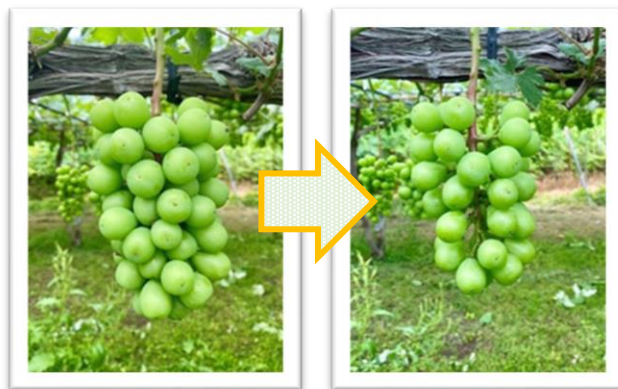
常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

摘粒

摘粒は房の形を決めるとても重要な作業の1つ。1房にすべての実をつけてしまうと粒同士が押し合って潰れてしまうため、房の中に潜り込んでいる粒や下向き上向きの粒をハサミで切り落とす。粒がまだ小さい状態の時に、大きくなることを想像しながら切るので、ぶどう栽培の中で最も難しく神経を使う作業。

摘粒が上手な人のつくるぶどうは芸術作品のような綺麗な見た目に仕上がる。



袋掛け

病虫害予防のために袋をかけた。口をしっかりと閉めないと虫が入ってきてしまうので、緩くならないように気をつけた。

袋は白や透明、窓付きなど様々な種類があって品種ごとに使い分けた。



活動を行った感想など

摘粒はこの1粒を切るかどうか悩んで時間がかかってしまった。切りすぎかなと思ったところもあったが、大きくなった出来を見てちょうど良い粒がまとまった房になっていたので安心した。

収穫したぶどうにカイガラムシがついている房があった。おそらく袋をかけた後に閉め口から入ったと思われるので、もう少しキツく締めることを心がけて袋をかけるようにする。

※カイガラムシは、貝殻を背負ったような見た目をしている。カメムシの仲間、植物の汁を吸って葉や枝をダメにしてしまう。

今後の目標など

7月末から経営スタートアップ講座が始まった。今までなんとなくこういう経営がしたいという理想はあったが、講座を通して会社の経営理念を具体的に考え、それを言語化したり、ケーススタディや中期目標の立て方を学んだりして、独立後の経営をする上でとても重要な勉強をすることができた。

最終的に経営計画書を書いてプレゼンテーションで発表するので、それに向けて受講や課題提出をしていく。



8月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

反射シート張り

ぶどうの房全体に光が当たるように地面に反射シートを張った。太陽の光が当たることでぶどうは色づきや食味が良くなる。収穫前の忙しい時期だが、この一手間を惜しまないことが良いぶどう作りにつながるのだと感じた。



収穫、販売

直売所がオープンして収穫と販売が始まった。初収穫されたぶどうを見て、この1年間の苦労を思い出し、嬉しさと感動で目が潤んだ。

販売時期の仕事は、収穫されたぶどうを傷みがないか直売所内で確認し販売用の袋へ詰める替える作業や、ぶどう狩りやぶどうを買いに来られたお客様への接客をした。



活動を行った感想など

収穫と販売が始まり、今年も無事にぶどうを収穫できたこと、研修先の農園で色んな仕事を経験させてもらえたこと、買いに来てくれるお客様がいること、様々なことに感謝の気持ちが込み上げてきた。

最初の1ヶ月は、この1年間の努力が報われたような気持ちで毎日楽しく夢中で仕事をしていたのだが、次第に疲れが溜まっていき仕事集中力が切れてしまうことが増えてしまった。忙しい中での体調の整えかたを身につけて、ベストな状態で仕事に取り組めるようにしたい。

今後の目標など

販売は10月いっぱいまで行うので、今はとにかく終盤まで体力と集中力が保てるように、よく働き、よく食べ、よく寝て、体調を崩さず最後まで駆け抜きたい。



9月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

収穫

本来であれば、白色などの色付きの袋がかかっているぶどうは、収穫前に袋を開けて着色の具合を確認してから収穫する。しかし、今年は好天に恵まれ、さらに夜温が低かったこともあり、特に巨峰は例年より色づきがよかった。そのため収穫前の着色確認作業を省略でき、収穫作業のスピードが速く楽だった。その他の品種も品質が良く、研修先では今までで一番出来が良い年だったそう。



販売

研修先では約30品種のぶどうを栽培しており、特に9月は最も多くの品種が店頭に並ぶ時期である。そのため、お客様に品種ごとの味や食感の違いを上手く説明できるよう、事前に情報を整理して接客に臨んだ。

やはり常陸太田では巨峰と常陸青龍が圧倒的な人気で、次いでシャインマスカットという印象を受けた。しかし、富士の輝や真沙果といった、まだ全国的な知名度の低い品種についても、知っているお客様が多くいらっしゃり、さすがはぶどうの産地だと、改めて実感した。



活動を行った感想など

お彼岸のころには、来客数のピークを迎え、多忙を極めた。この時期はいつも、どの農園でも家族やパートさんたちの支えがあって経営が成り立っていることを強く感じる。これから自分がやろうとしていることも決して一人では成し遂げられないことと理解しているので、いずれ自分が指導する立場になることを意識しながら、師匠の立ち振る舞いなどを見習っていきたい。

今後の目標など

販売も終盤となり、これから自分が研修作業以外に使える時間が増えてくると思う。今後を見据えた活動（具体的には農地探し、農園等視察、栽培や経営の学習）を積極的に行い、有意義な時間活用をしていきたい。



10月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

ぶどう狩り案内

ぶどう狩りに来たお客様にぶどう狩りのシステム、獲れる品種、食べ頃のぶどうの見分け方などを説明し園内を案内した。わかりやすく味の説明をしたり、お子様の収穫のサポートをしたり、家族写真を撮ってあげたりなど、お客様に楽しんでもらえるよう工夫した。

朝市出展

活動報告を兼ねて朝市にぶどう販売で出店した。予想通り800円のカップはすぐに売り切れて3,000円の房だけが最後残ってしまったことを受けて、出展するイベントのタイプによって販売方法を考えなければいけないと改めて実感した。また、ぶどうを買った後にパネルを掲示していることを案内すると見てくれた方が多くいた。最終的にぶどうを完売できたことはもちろん嬉しかったが、目的である市民の皆さんに地域おこしの活動を知っていただくことも少しはできたと思うのでよかった。



活動を行った感想など

巨峰と常陸青龍のぶどう狩りは色付きの袋がかかっているお客様は外から見づらく、ぶどう狩りをしても袋を開けると傷んでいる場合が多かった。今年は特に暑さで痛みが早かったので、ぶどう狩り用にとっておいた巨峰の3分の2は廃棄となってしまった。

ぶどう狩り用のぶどうは袋はかけず傘だけにするか、透明の袋をかけるなど、やり方を工夫しなければいけないと思った。

朝市については来年以降もう少し早い時期に出店して、ぶどうと梨を両方販売したり、ゆっくりパネルを見る時間がない方のためにパネルの資料をまとめた冊子を渡したりするなど改善の余地があったと思った。



11月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

ビニール張り替え

古くなったビニールを剥がして、新しいビニールに張り替えた。4～5年で張り替えになるが、同じ年に全てのハウスのビニールを張り替えるのは大変なので、研修先では毎年1カ所ずつ張り替えられるように作業時期がずらされている。



葉っぱ焼却

落ちたぶどうの葉っぱには、病原菌が残っている可能性があるので、燃やして処分をした。研修先農家では、ハウスの中で燃やしたので、炎が上がりすぎて芽が焼けないように気をつけた。

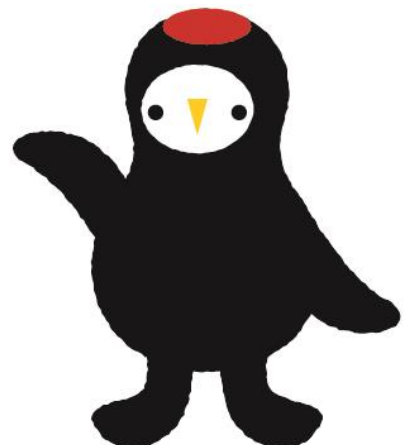
葉っぱをハウスの外に持ち出すのは大変だが、ハウス内で燃やすのは、熱がぶどうにも伝わるので生育に影響が出そうで少し心配だった。自分でやる時は違う処分方法を考えたい。



活動を行った感想など

11月の初旬で販売が終了して売店の片付けをしている最中に体を痛めてしまった。販売は終わったがビニールの張り替えや剪定などまだまだやることはたくさんあるので、体の調子を整えて冬の作業に取り掛かりたい。

冬の休みが取れる間に、小型建設機械などの作業資格をとりたい。



12月報告書

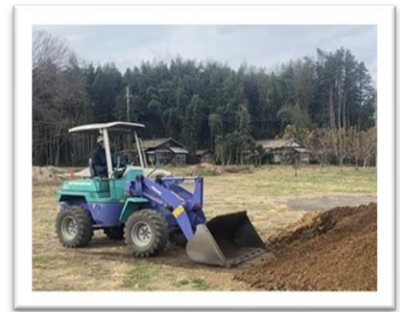
常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

■ 小型車両系建設機械講習の受講

トラクターショベル(右写真上)で堆肥や土を運んだり、ドラグショベル(右写真下)で苗を植えるための穴を掘ったりする作業の講習を受けた。

どちらも初めて乗る機械で最初は操作に戸惑ったが、練習を重ねるごとに感覚を覚え、スムーズに動かせるようになった。今後もうまく使いこなせるようになっていきたい。



■ 仮剪定と枝の粉碎

剪定後の枝の処理の簡略化のために、先に仮剪定を行い、その枝をチップパーで粉碎処理をした。仮剪定は基本的に一定の長さで切り続けていけるが、樹冠を拡大するために伸ばしたい枝も混じっているので、情性で切ってしまうないように気をつけた。

チップパーの操作は何度も経験があるが、「故障防止のために使用前は毎回グリースを注入する」ことを改めて教わり、非常に勉強になった。

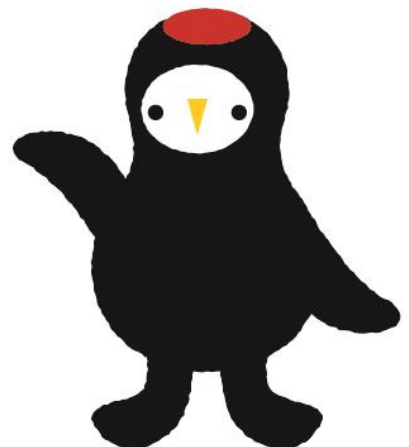


活動を行った感想など

冬は機械操作や力仕事が多くなり、さらに寒さで体を動かすのも硬くなるので怪我をしないように注意する。

今後の目標など

長梢剪定が始まった。昨年教わったやり方を覚えているか不安だったが、やり始めたらすぐ感覚を思い出し、昨年より迷わずに切ることができている。今後はさらに判断を正確に速くできるようになっていきたい



1月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

剪定

昨年、経験ゼロの状態から長梢剪定を教わった。まず長梢剪定の理論を1日座学で教わり、次の3日間で師匠の剪定の様子をひたすら見て学んだ。その後、実作業で、ようやく感触を掴むことができた。

そうして時間をかけて深く教わったおかげで、昨年の経験を体が覚えており、初日からスムーズに剪定に入ることができ、学んだことしっかり理解できていることが確認できた。

この感覚を忘れないように頭の片隅に置き、1年後の剪定に引き出して使えるように大切にしていきたい。



発芽促進剤散布

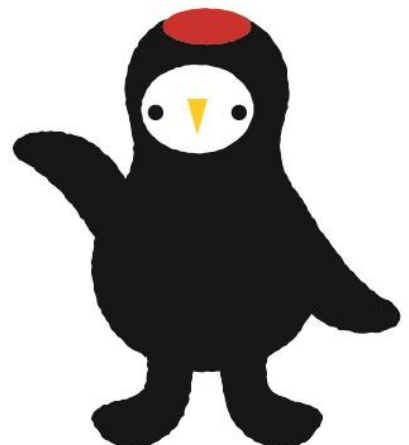
発芽促進剤のcx-10は、芽に噴きかけることで発芽が1週間程度早くなり、萌芽率も上がるため、発芽せず出来るスペースを減らすことができる。

短梢剪定は、枝がまっすぐに伸びているため、一方向に進みながらかけられるので簡単だが、長梢剪定は、枝が入り組んでいるため、混乱しないように枝をしっかり追って、かけやすれないように注意した。



活動を行った感想など

発芽促進剤を散布する道具を朝準備してもらい、タンクの中にも水が入っていたので、そのまま散布をしたら、薬剤が入っていない可能性があることが判明し、翌日やり直しになってしまった。作業前に薬剤が入っているかを確認しなければいけなかったことを反省した。



2月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

■ 二重被覆のパイプ組み立て

収穫の早期化を目的に、ビニールを二重被覆にするためのパイプを組み立てた。普通のビニールハウスの内側にもう一枚ビニールを張ることで保温効果が高まり、生育が早くなる効果がある。

パイプを運んで、切って、組み立てて、という作業を2ヶ月続けて腕や腰が痛くなり、大変な仕事だった。

■ 短梢剪定

昨年自分が切ったのと同じ樹を剪定させてもらった。昨年切ったところからどのような枝が出ているか参考にして、芽数や芽の向きに気をつけながら剪定した。

■ 経営スタートアップ講座

全10回の講座の最終回で、経営計画のプレゼンテーションをした。この講座を通じて多くの経営知識と、経営者のマインドを身につけることができた。今回作成した計画書をもとに経営していけるように頑張りたい。



活動を行った感想など

ハウス仕事は重労働なので業者に頼むことも多いが、なんでも自分でやってしまう師匠は本当にすごいと思った。貴重な経験をさせてもらうことができてよかった。

